

# 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 ＝留萌市における結果の概要＝

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

- (1) 国が全国的な児童生徒の体力・運動能力や運動習慣・生活習慣等を把握・分析することにより、児童生徒の体力・運動能力や運動習慣・生活習慣等の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が全国的な状況を踏まえ、児童生徒の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、児童生徒の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力・運動習慣や生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

### 2 調査対象

- (1) 小学生調査 小学校第5学年（留萌市調査実施児童 男子 52名 女子 50名）
- (2) 中学校調査 中学校第2学年（留萌市調査実施生徒 男子 53名 女子 50名）

### 3 調査内容

#### (1) 児童生徒に対する調査

##### ア 実技に関する調査

###### ・小学校調査

〔8項目〕握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

###### ・中学校調査

〔8項目〕握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン又は持久走（男子1500m、女子1000m）、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

※20mシャトルランか持久走のどちらかを選択

##### イ 質問紙調査

###### ・運動習慣、生活習慣等に関する調査

#### (2) 学校に対する質問紙調査内容

###### ・質問紙調査（子供の体力の向上に係る学校の取組等）

### 4 調査実施日

令和6年4月から7月まで

## ※ 備考

○「Ⅲ 児童生徒質問紙の調査結果の概要」における全国平均等との差を表す基準について

- |       |      |      |       |
|-------|------|------|-------|
| ・7%以上 |      | 相当多い | 相当少ない |
| ・5%以上 | 7%未満 | 多い   | 少ない   |
| ・3%以上 | 5%未満 | やや多い | やや少ない |

## II 実技に関する調査結果の概要

### 1 用語解説と説明

体力テスト種目	体力要素	測定
握力	筋力	左右握力の平均値
上体起こし	筋パワー・筋持久力	30秒間に上体を起こした回数
長座体前屈	柔軟性	長座位で前屈したときの両手の前方への移動距離
反復横とび	敏捷性	20秒間に両脚で左右側方に反復跳躍した回数
20mシャトルラン	全身持久力	20m走行の折り返し回数
(中)持久走	全身持久力・長距離走能力	男子1500m、女子1000mの走行時間
50m走	疾走能力	50mの疾走時間
立ち幅とび	筋パワー・跳躍能力	両脚で前方へ跳躍した直線距離
(小)ソフトボール投げ (中)ハンドボール投げ	巧緻性・投球能力	遠投した距離
体力合計点	8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して総和した体力テスト合計得点(80点満点)	
総合評価	8種目の体力テストをすべて実施した場合、体力テスト合計得点の良い方からABCDEの5段階で評定した体力の総合評価 小学校第5学年 A:65点以上 B:58～64 C:50～57 D:42～49 E:41点以下 中学校第2学年 A:57点以上 B:47～56 C:37～46 D:27～36 E:26点以下	

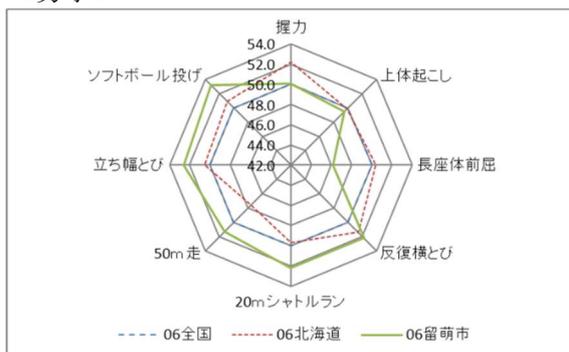
※(小)は小学校、(中)は中学校

用語	解説
標本数	・平均値、標準偏差、T得点(※)を算出した人数
平均値	・調査結果(テスト成績)の算術平均値で集団の尺度上の位置を示す。 「平均値=調査結果の総和/標本数」
標準偏差	・調査結果の分布の広がりを示す。平均値±標準偏差の範囲内に全体の68%が入る。 ・平均値±標準偏差の3倍の範囲内にはほぼ全体が入る。(いずれも正規分布の場合) 「標準偏差=分散の平方根、分散=偏差平方和/(標本数-1)、 偏差平方和=偏差の平方の総和、偏差=調査結果-平均値」
体力合計点	・実技テスト項目における得点の合計
T得点(※)	・全国平均値に対する相対的な位置を示し、単位や標準偏差が異なる調査結果を比較する平均値50点、標準偏差10点の標準得点。 「T得点=50+10×(調査結果-平均値)/標準偏差」

### 2 小学校5年生の結果概要

(1) 各種目の結果(全国を50とした時のT得点をレーダーチャートで表示)

<男子>

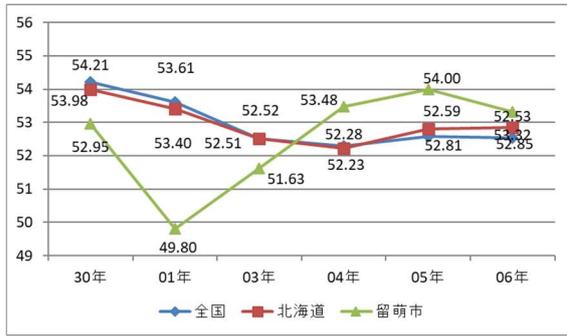


<女子>



(2) 体力合計点（平均値）の推移

<男子>

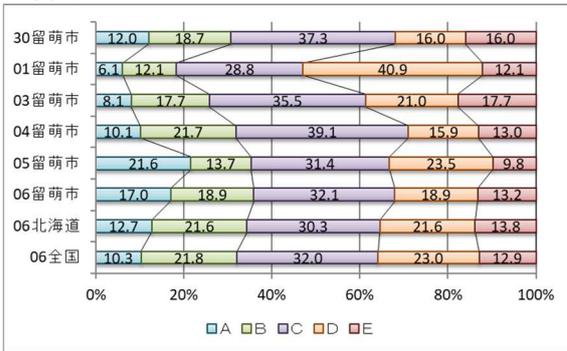


<女子>

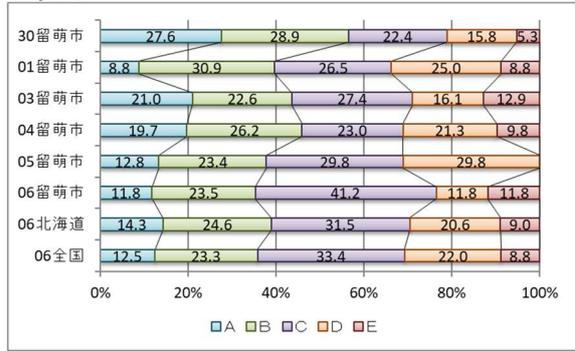


(3) 総合評価の推移

<男子>



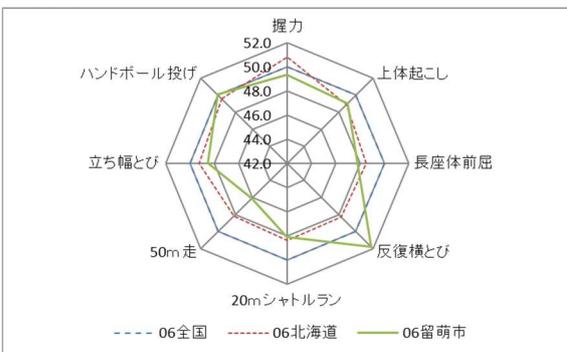
<女子>



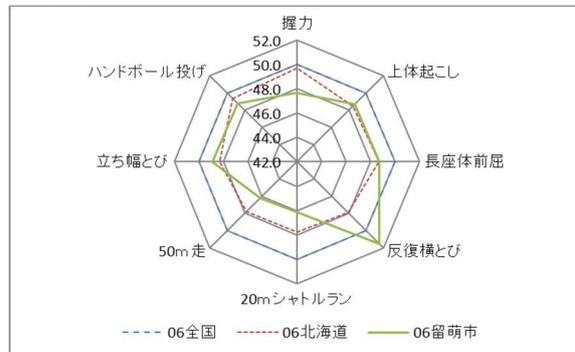
3 中学校2年生の結果概要

(1) 各種目の結果（全国を50とした時のT得点をレーダーチャートで表示）

<男子>



<女子>

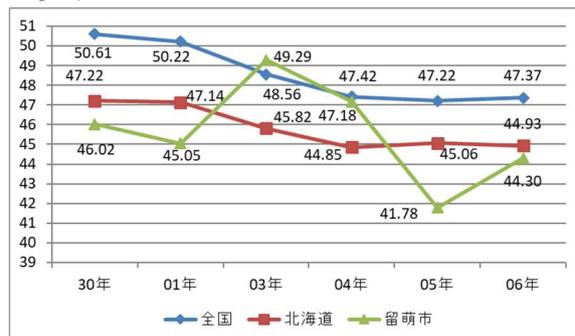


(2) 体力合計点（平均値）の推移

<男子>

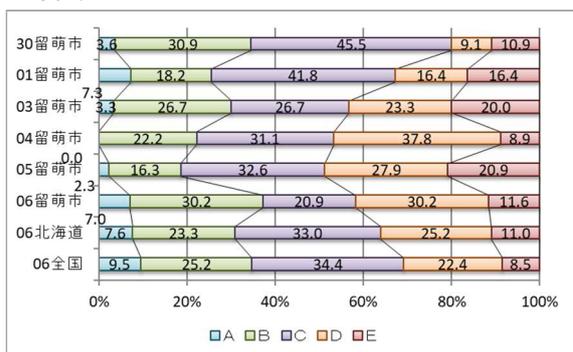


<女子>

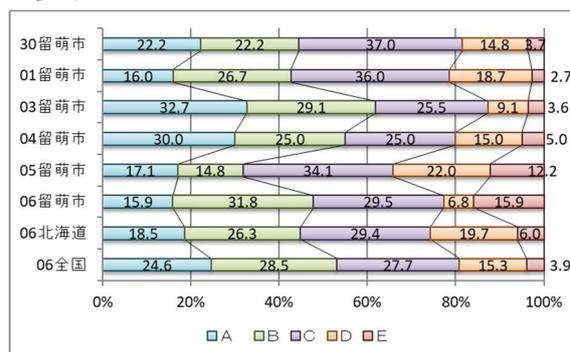


### (3) 総合評価の推移

<男子>



<女子>



#### 【小学校】

##### ○各種目

- 男子・女子共に、「反復横とび」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」が全国及び全道平均を上回り、「握力」は全国平均を上回ったが、全道平均を下回った。「上体起こし」「長座体前屈」は全国及び全道平均を下回った。

##### ○体力合計点（平均値）・総合評価

- 体力合計点は、男子は、全国平均を0.79ポイント、全道平均を0.47ポイント上回った。女子は、全国平均を0.83ポイント、全道平均を0.43ポイント上回った。
- 総合評価は、男子は、A・B層（2P参照）の割合は6年間（02年を除く）で最も多く、全国と比べてもやや多いが、全道とは同程度である。女子は、A・B層の割合は05年度と比べると同程度であり、全国とも同程度で、全道よりやや少ない。

#### 【中学校】

##### ○各種目（※「20mシャトルラン」と「持久走」は、どちらかを選択して実施）

- 男子は、「反復横とび」「ハンドボール投げ」が全国及び全道平均を上回った。「上体起こし」は全道平均を上回ったが、全国平均は下回った。「握力」「長座体前屈」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅とび」は全国及び全道平均を下回った。
- 女子は、「反復横とび」が全国及び全道平均を上回った。「上体起こし」「立ち幅とび」は全道平均を上回ったが、全国平均は下回った。「長座体前屈」は全道平均と同程度だったが、全国平均を下回った。「握力」「20mシャトルラン」「50m走」「ハンドボール投げ」は全国及び全道平均を下回った。

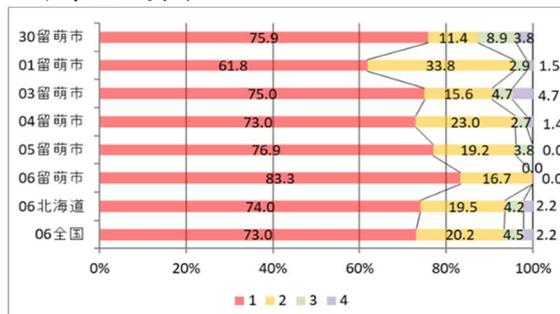
##### ○体力合計点（平均値）・総合評価

- 体力合計点は、男子は、全国平均を1.21ポイント下回ったが、全道平均を0.16ポイント上回った。女子は、全国平均を3.07ポイント、全道平均を0.63ポイント下回った。
- 総合評価は、男子は、A・B層の割合は05年度より相当多く、全国と比べると同程度であるが全道と比べると多い。女子は、A・B層の割合は05年度より相当多く、全国と比べると少ないが全道と比べると同程度である。

### Ⅲ 児童生徒質問紙の調査結果の概要

質問 1	運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。
	1 好き 2 やや好き 3 やや嫌い 4 嫌い

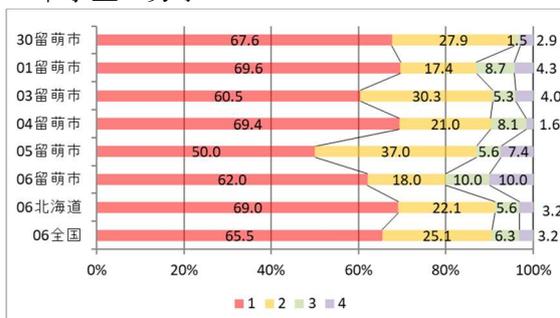
<小学生・男子>



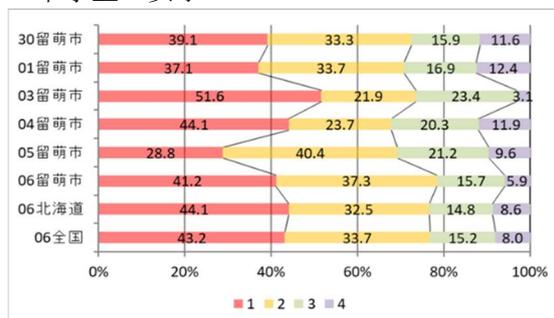
<小学生・女子>



<中学生・男子>

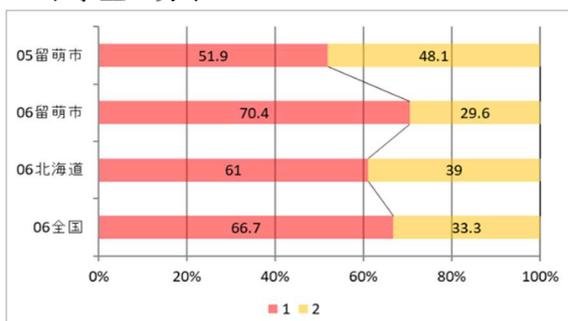


<中学生・女子>

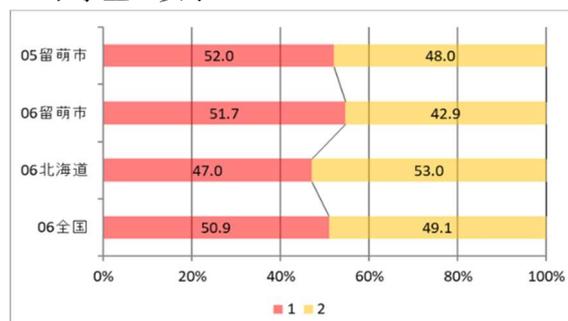


質問 2 (小)	地域のスポーツクラブに入っていますか。(スポーツ少年団や習い事をふくみます。)
	1 入っている 2 入っていない

<小学生・男子>

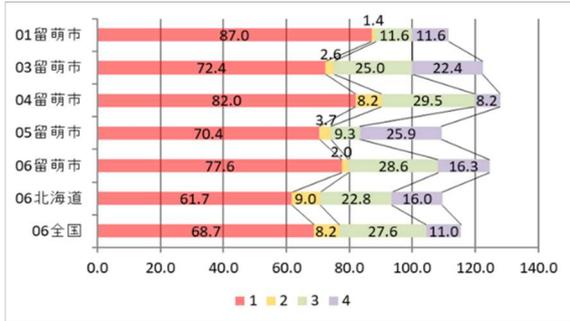


<小学生・女子>

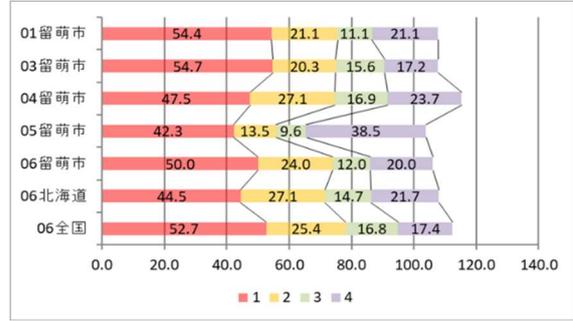


質問2	学校の部活動や地域のクラブ活動、地域のスポーツクラブに所属していますか。当 てはまるものをすべて選んでください。【複数回答】
(中)	1 学校の運動部                      2 学校の文化部 3 地域のクラブ活動、スポーツクラブ                      4 所属していない

<中学生・男子>

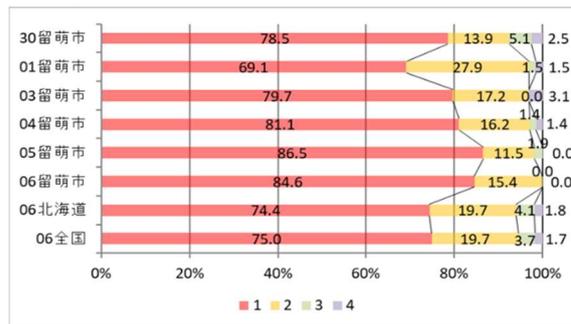


<中学生・女子>

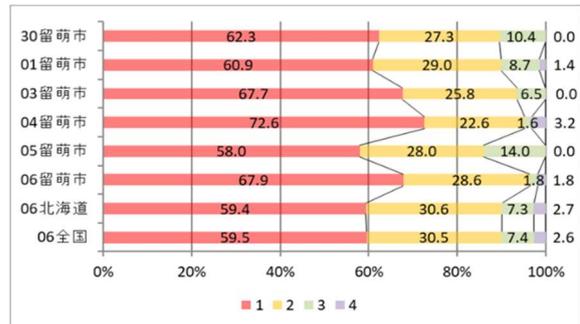


質問3	体育〔保健体育〕の授業は楽しいですか。 1 楽しい    2 やや楽しい    3 あまり楽しくない    4 楽しくない
-----	--

<小学生・男子>



<小学生・女子>



<中学生・男子>

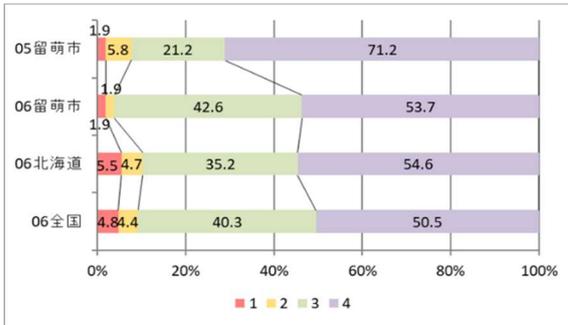


<中学生・女子>

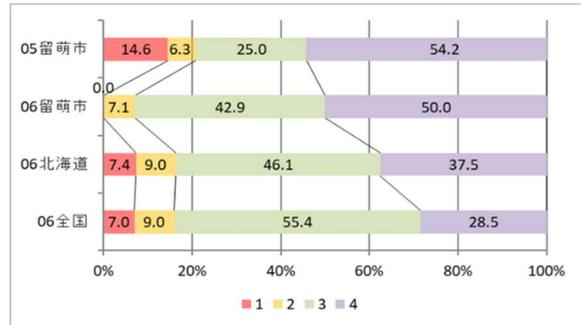


質問4 (小)	ふだんの1週間について聞きます。学校の体育の授業以外で、運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツを合計で1日どのくらいの時間していますか。 (※月曜日から日曜日までの時間を合計し、1週間の総運動時間として表記)							
	1	0分	2	60分未満	3	60分以上	4	20分未満
	4	420分以上						

<男子>

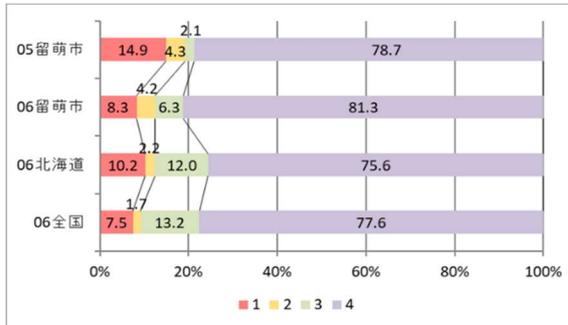


<女子>

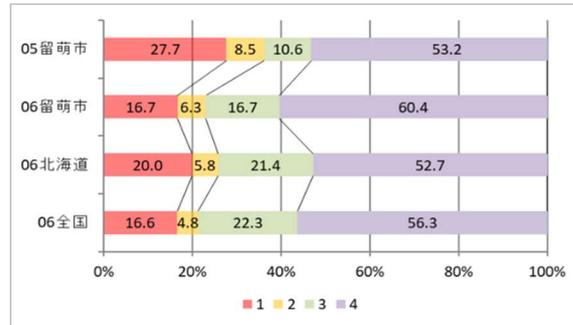


質問4 (中)	学校の運動部や地域のクラブ活動、スポーツクラブ、それ以外の運動やスポーツ、それぞれ何分ぐらい活動していますか。 (※各項目及び月曜日から日曜日までの時間を合計し、1週間の総運動時間として表記)							
	1	0分	2	60分未満	3	60分以上	4	20分未満
	4	420分以上						

<男子>

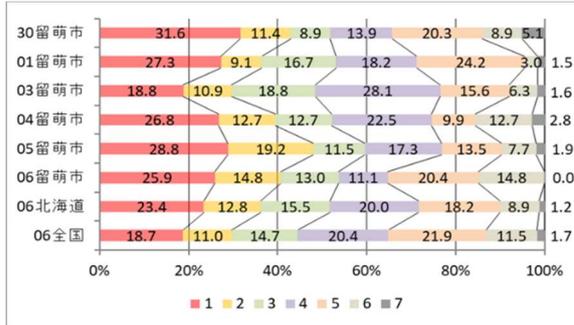


<女子>

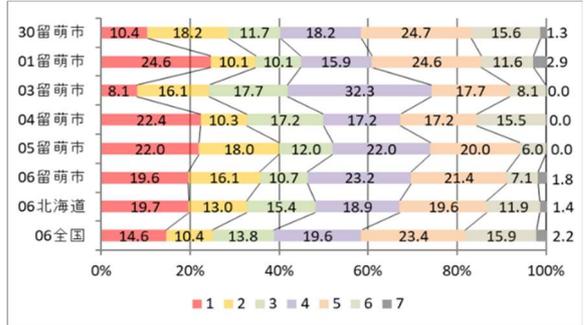


質問5	平日(月～金曜日)について聞きます。学習以外で、1日にどのくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ていますか。
	1 5時間以上    2 4時間以上5時間未満    3 3時間以上4時間未満 4 2時間以上3時間未満    5 1時間以上2時間未満    6 1時間未満 7 全く見ない

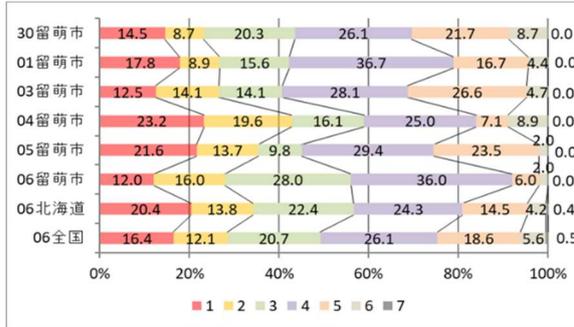
<小学生・男子>



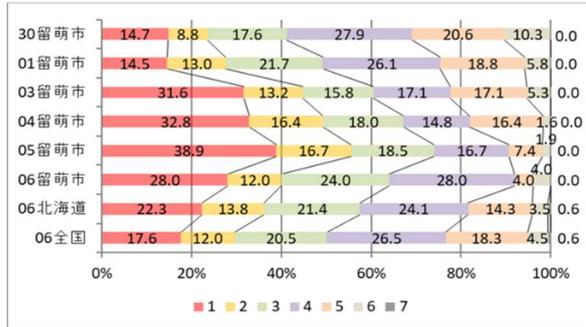
<小学生・女子>



<中学生・男子>

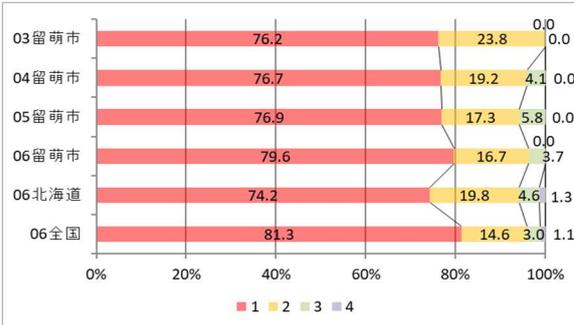


<中学生・女子>

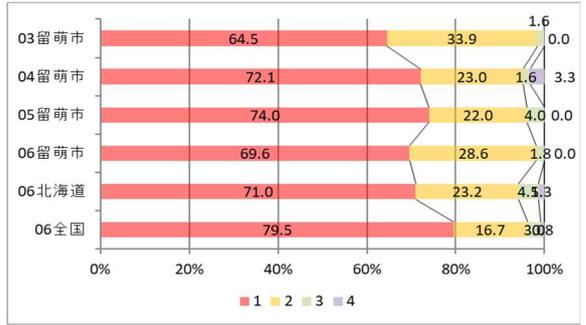


質問6	朝食を毎日食べますか。(学校が休みの日も含めます)
	1 毎日食べる    2 食べない日がある    3 食べない日が多い    4 食べない

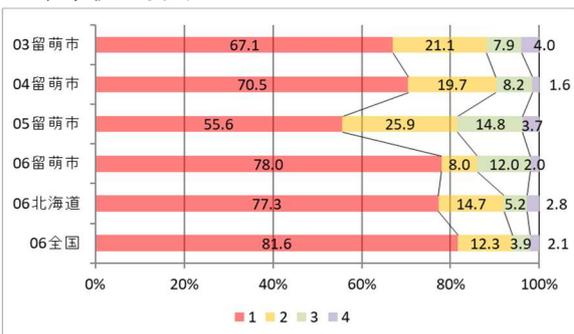
<小学生・男子>



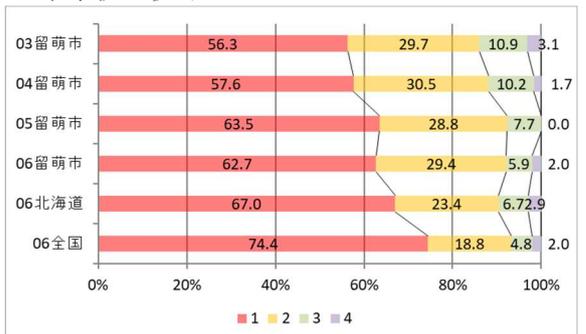
<小学校・女子>



<中学校・男子>



<中学校・女子>



#### 【小学校】

- ・運動やスポーツをすることが好きと肯定的に回答した児童の割合は、男子は全国より多く、05年度よりもやや多い。女子は全国よりも相当多く、05年度より相当多い。
- ・地域のスポーツクラブに入っている児童の割合は、男子は全国よりもやや多く、05年度よりも相当多い。女子は全国と同程度であり、05年度とも同程度である。
- ・体育の授業は楽しいと肯定的に回答した児童の割合は、男子は全国より多く、05年度と同程度である。女子は全国より多く、05年度より相当多い。
- ・体育の授業以外で、運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツを一週間でどのくらいしているかという質問では、男子は420分以上と回答した児童の割合は全国と比べてやや多く、全道とは同程度である。女子も420分以上と回答した児童の割合が全国及び全道より相当多い。
- ・平日に1日に3時間以上テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ている児童の割合は、男子は全国より相当多く、05年度と比べると少ない。女子は全国より相当多く、05年度と比べると少ない。
- ・朝食は毎日食べるかという質問では、男子は毎日食べると回答した児童の割合は、全国と同程度であり、05年度とも同程度である。女子は毎日食べると回答した児童の割合は、全国より相当少なく、05年度よりもやや少ない。

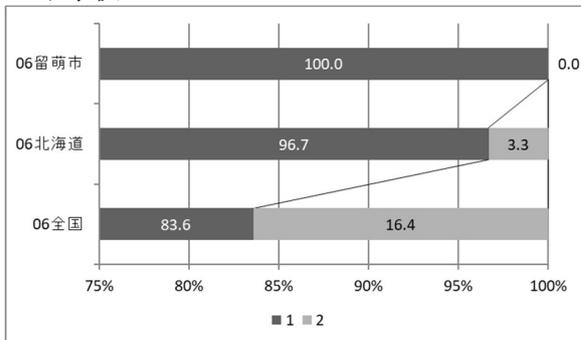
#### 【中学校】

- ・運動やスポーツをすることが好きと肯定的に回答した生徒の割合は、男子は全国と比べると相当少なく、05年度より相当少ない。女子は全国と同程度で、05年度よりも相当多い。
- ・学校の部活動や地域のクラブ活動、スポーツクラブに所属している生徒の割合は、男子は全国と比べて相当多く、女子は相当少ない。
- ・体育の授業は楽しいと肯定的に回答した生徒の割合は、男子は全国と比べると少なく、05年度と同程度である。女子は全国と比べて相当多く、05年度よりも相当多い。
- ・学校の運動部や地域のスポーツクラブ等の活動、それ以外の運動やスポーツなどを一週間でどのくらいしているかという質問では、男子は420分以上と回答した生徒の割合は、全国と比べてやや多く、全道より多い。女子は全国と比べてやや多く、全道よりも多い。
- ・平日に1日に3時間以上テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ている生徒の割合は、男子は全国より相当多く、05年度と比べると相当少ない。女子は全国と比べて多く、05年度より相当多い。
- ・朝食は毎日食べるかという質問では、男子は毎日食べると回答した生徒の割合は、全国よりやや少なく、05年度より相当多い。女子は毎日食べると回答した生徒の割合は、全国より相当少なく、05年度と同程度である。

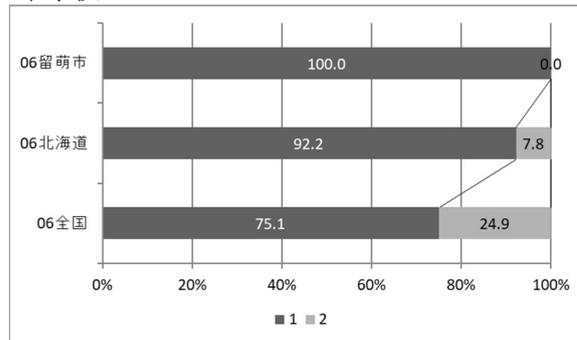
#### IV 学校質問紙の調査結果の概要

質問 1	児童（生徒）の体力・運動能力の向上のための学校全体の目標を設定していましたか。
	1 設定していた      2 設定していなかった

<小学校>

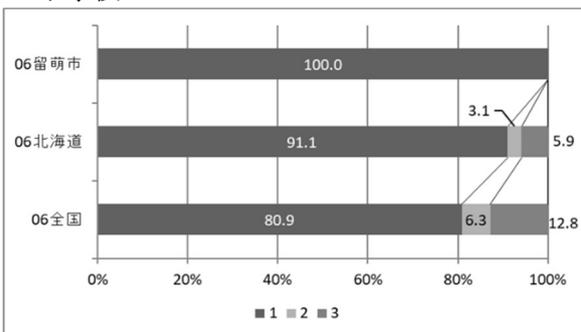


<中学校>

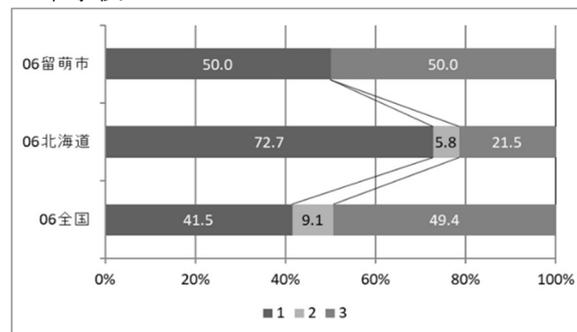


質問 2	体育（保健体育）の授業以外で、全ての児童（生徒）の体力・運動能力の向上に係る取組を行いましたか。
	1 行った      2 一部の学年が行った      3 行わなかった

<小学校>

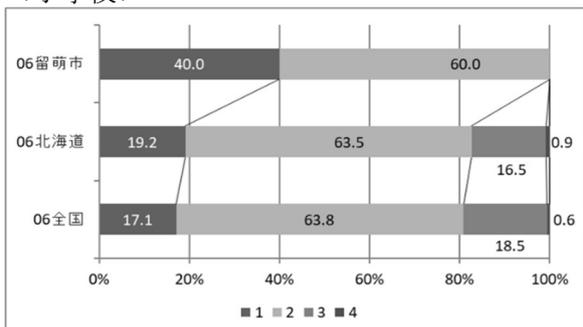


<中学校>

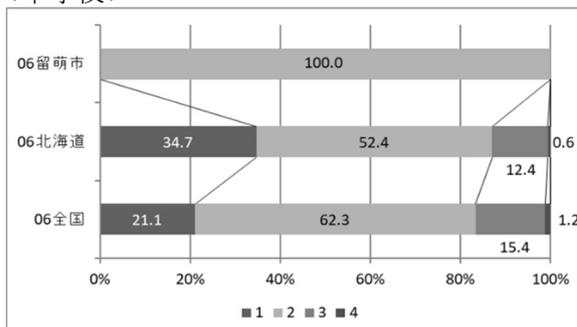


質問 3	教師は児童（生徒）の体力向上や体育の授業研究に関する校内外の研修や研究会に参加し、自校の体力・運動能力の向上に係る取組に反映していますか。
	1 よくしている      2 どちらかといえばしている 3 あまりしていない      4 全くしていない

<小学校>

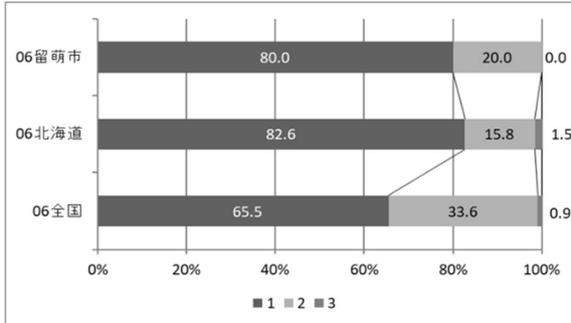


<中学校>

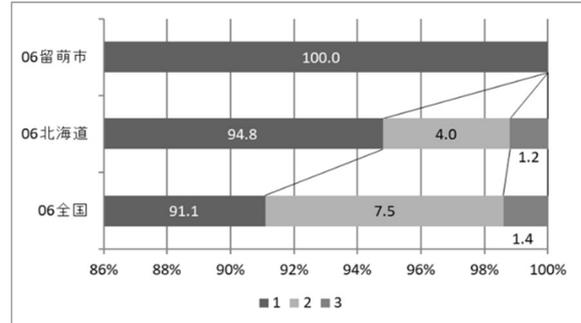


質問 4	体育（保健体育）の授業では、児童（生徒）同士で話し合う活動を取り入れていますか。
	1 取り入れている                      2 一部の学年で取り入れている 3 取り入っていない

<小学校>

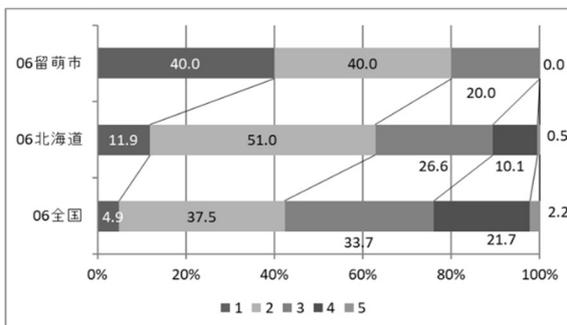


<中学校>

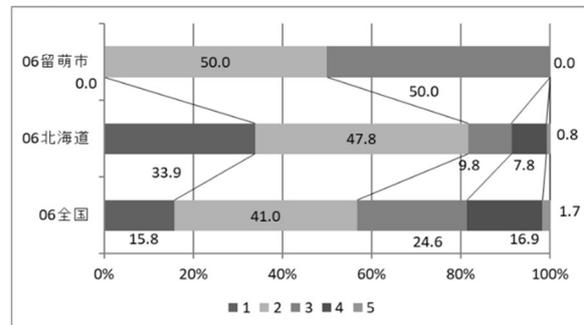


質問 5	体育（保健体育）の授業におけるICTの活用について、どのくらいの頻度で活用していますか
	1 毎時間活用している                      2 週に1時間程度活用している 3 月に1時間程度活用している                      4 年に数時間程度活用している 5 ICTを活用していない

<小学校>



<中学校>



**【小・中学校】**

- 体力・運動能力を向上させるための学校全体の目標設定は、全ての小学校と中学校で行われている。
- 体育（保健体育）の授業以外の児童生徒の体力・運動能力の向上に係る取組は、全ての小学校で行われているが、一部の中学校では行われていない。
- 体力向上や授業研究に関する研修や研究会等へ参加し学校に反映しているかについては、全ての小学校と中学校でなされている。
- 体育（保健体育）の授業における児童（生徒）同士の話し合い活動は、小学校では一部の学年で取り入れている学校もあるが、全ての小学校と中学校で行われている。
- 体育（保健体育）の授業におけるICTの活用については、毎時間、あるいは週に1時間程度と回答した割合が、小学校では全国及び全道より相当多い。中学校では全国と比べて少なく、全道より相当少ない。

## V おわりに

体力は、あらゆる活動の源として、健康維持のほか、意欲や気力の充実にも大きくかかわっており、子どもたちが生涯にわたって心身ともに健やかに生きるための基盤となるものです。そのため、幼児期から運動に親しむ資質や能力を育成し、体力及び運動能力の向上に努めることが大切になります。

この「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」は、全国的な児童生徒の体力・運動能力、運動習慣等を把握・分析することにより、国や各教育委員会、各学校が課題を共有し、体力向上・健康増進に向けた教育活動の改善に役立てていくことを目的としています。各学校においては、新体力テストや質問紙調査等の結果を踏まえ、体育（保健体育）科年間指導計画や体力・運動能力向上プランの見直しを図るとともに、体育的活動や授業改善に活用するなど、体力・運動能力向上に向けた検証改善サイクルを確立し、課題に正対した取組を進めてきています

体力合計点における全国平均値との比較では、小学校男子と女子は共にやや上回りましたが、中学校男子と女子は共に下回りました。種目別に見ると、小学校・中学校男女合わせて32種目中15種目が全国を上回っています。（昨年度は、32種目中12種目）

スポーツ庁の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書」においては、体力合計点における全国平均値は、男女の若干の違いはあるものの、令和5年度との比較では、小学校で低下、中学校では向上しており、小学校と中学校で結果に違いが見られたとし、中学校男子が新型コロナウイルス感染症蔓延前の令和元年度の数値を上回った一方で、小学校女子が過去最低となっているとしています。また、「朝食を毎日食べる」と回答する割合が男女ともに減少傾向にあること、スクリーンタイム（テレビ、スマートフォン、ゲーム機等の視聴時間）が増加傾向にあること、新型コロナウイルス感染症蔓延による行動制限を経たことで生活様式が変化したことなどが課題であると述べています。

留萌市の結果においては、体力合計点を昨年度と比較すると、小学校男子はやや下回り、小学校女子はやや上回りましたが、いずれもほぼ同様の状況にあると言えます。中学校男子と中学校女子は、共に昨年度を上回る結果となりました。また、生活面においても、上記下線部のような状況が顕著であり、生活習慣の改善が求められます。

子どもたちが、運動の楽しさや大切さを実感し、自分の生活スタイルを見直すなどの意識を高めるとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する基盤を養うことができるように、体育（保健体育）の学習の工夫・改善をはじめ、日常生活の中で運動に親しむ機会の確保、学校行事や部活動との関連性を生かした指導の推進など、様々な場面を通して体力・運動能力の向上や運動習慣の定着に向けた取組を充実させていくことが重要です。そのためには、学校だけではなく、家庭や地域の皆様との連携・協働が必要になります。今後も、各小中学校と教育委員会において、体育・健康等に関する指導の充実と課題の解決に努めて参りますので、引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げます。